

# HCI International 2003 参加報告

白井 良成

(日本電信電話株式会社 NTT コミュニケーション科学基礎研究所)

## 会議概要

2003年の6月22日から27日にかけて、HCI International 2003<sup>1</sup>(10th Int'l Conf on Human - Computer Interaction) が、ギリシャのクレタ島で開催された。本会議は隔年で行われる国際会議であり、本年度は Symposium on Human Interface (Japan) , 5th Int'l Conf on Engineering Psychology and Cognitive Ergonomics (EP&CE) , 2nd Int'l Conf on Universal Access in Human-Computer Interaction (UAHCI) の3会議と併催して行われ、65ヶ国から1316名もの人に参加した。ギリシャでの開催のため、欧州からの参加が多かったが、ヒューマンインタフェース学会との共催による影響が、日本人の姿も企業、大学問わず多数見受けられた。会場(図1)は、イラクリオン市外から車で30分ほどの所にあるリゾート地であり、会議の参加者は空いている時間を利用して、ビーチやクノッソス宮殿に足を伸ばしていたようである。



図1: カンファレンス会場周辺

## 会議の傾向

本会議は、論文発表(204セッション: 1134件)の他、Maryland大のBen Shneiderman氏とJenny Preece氏による2件の招待講演、122件のポスター、12件のデモ、4件のワークショップ、7件のSIG、29件のチュートリアルにより構成された。まず、全体的な傾向として、モバイル、ユビキタス関連の研究発表が非常に多いと感じた。所謂実世界指向系のセッション(Ubiquitous Computing, Wearable Computing等)だけでなく、Visualizationやデザイン関係などの一見実世界指向とは無関係なセッションでも実環境での利用を視野に入れた研究が多く見受けられた。筆者は本会議において、実環境に人の活動痕跡を残すことで場の理解を促進しようという提案を行い、一例として掲示板上に掲示物の閲覧や貼り換えによる痕跡を残すシステム(Optical Stain)を紹介したが、本発表もMetaphorという少々意外なセッションに割り振

られた。また、UAHCIのセッションが実に55にのぼり、ユニバーサルデザインに関する研究の盛り上がりを感じられた。

オーラルセッションは17のトラックが平行して行われたため、聴講したい発表をすべて聞くことはできなかったが、筆者が聴講した部屋は、常時大体20名前後が参加し、熱い議論が行われていた。発表の傾向として、すでにまとまった成果が得られた研究の報告だけでなく、現在進行中の研究の報告やアイデアの提案を行う発表が多い印象を受けた。ポスター及びデモセッションは、セッションのための特定な時間帯は設けられず、発表者が説明可能な時間帯を各自ボードに記載し、記載した時間帯に説明するという形式が取られた。そのため、時間帯があわず聞けない展示が多くなってしまったが、研究者と落ち着いた議論を行うことができた。

本会議は発表件数が多いためか荒削りな研究も多いが、世界各地から著名な研究者が多数参加しており、自分の研究を発表して意見交換をする場としては非常に適した会議と言えよう。次回は2005年にラスベガスで開催される予定である。余談ではあるが、会場で配布された会議録は非常に重く、会議場とホテル間の往復にも難儀するほどであった。会議場の掲示板上には、「会議録譲ります」という冗談ともつかない告知が張り出されたほどである。ラスベガスでは電子化された会議録が配布されることを期待している。

<sup>1</sup><http://www.hcii2003.gr/>